

平成 30 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ー ト

1 学校教育方針

- (1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる
- (2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる
- (3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる

2 目指す学校像と本年度の重点目標

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 目指す学校像 | 本年度の重点目標                     |
| 地域の学校  | 地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する |
| 自ら学ぶ学校 | 自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する       |
| 心豊かな学校 | 共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる          |

3 教育指針

人みな使命あり

4 学校自己評価結果【 A(4)…よくできた B(3)…できた C(2)…あまりできなかった D(1)…できなかった 】

| 評価項目 |   | 評価  | 評価と改善プラン   | 学校関係者評価   |   |
|------|---|---|--|---|---|
| I    | <b>地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する</b>                     | 評価  | <b>評価と改善プラン</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を支えている人材とはどのようなものか。学校の求めているものと地域の求めているものとのすり合わせが必要である。</li> <li>・マラソン大会等の協力など学校外の活動もできており、生徒にとってよい経験ができています。参加する体験にどのような観点・視点で貢献・行動していくのかということを考えることが重要である。</li> <li>・「活動の記録」の村岡区・小代区全戸配布は学校の取組を知ってもらうためにはとてもよいことである。</li> <li>・地域行事の参加について、学校外での個人参加しようとしていない点が気がかりである。</li> </ul>   |   |
|      | ①総務部  | PTAとの協力の中で、生徒の地域活動への参加の新たな可能性を広げる                       | <b>3.4</b>   |   | 地域活動への参加も定着してきているが、PTAと協力しながら新たな協力体制を検討する必要がある。   |
|      | ②教務部  | 地域の外部講師、機関との関わりを促し、類型授業の動きを職員に示す                        | <b>3.6</b>   |   | 昨年度と大きく変わることなく実施されているが、職員間での内容共有まで至っていない。来年度への課題でもある。   |
|      | ③生徒指導部  | 地域行事に積極的に参加することを通じて社会人として実践力を養う                         | <b>3.7</b>   |   | 多方面にわたって地域での活動を多く行っており、地域の期待も高い。今後も継続して地域づくりにつながる活動を生徒の主体性に着目して行いたい。  |
|      | ④進路指導部  | 地域をキーワードとして、地域関係学部学科での学びをプロデュースする                       | <b>3.8</b>   |   | 地域系学部を持つ国立大学合格者が前年に比べて多く、学びが進路実現に結びついた。特に、グローバルシェイパーズのワークショップが有効であった。次年度は、地域系学部への進学希望者が少ないので、アプローチの仕方に検討が必要である。         |
|      | ⑤保健部  | 家庭、学年と連携を深め、心と体の健康を自ら作り出す力を育てる                          | <b>3.2</b>   |   | 保健だより等で連携を持つようになっているが、さらに担任や保護者との連携を密にし、風通しのよい保健室経営に努める。  |
|      | ⑥1年   | 「地域協働活動」や「地域学入門」を通して、個々の役割を自覚し、またその役割を責任を持ってやり遂げるよう指導する | <b>3.4</b>   |   | 個々の役割を自覚し行動へと結びつくよう指導してきたが、まだ不十分な点もあり、引き続き指導していきたい。   |
|      | ⑦2年   | 総合学習の時間や地域探究を通して地域を正しく理解し、地域への愛着を深め地域貢献できる生徒の育成を目指す     | <b>3.5</b>   |   | 様々な学びや活動を通して校外内において地域との繋がりを深め、地域貢献への思いを強く持ち積極的に行動へと移せるようになった。   |
| ⑧3年  | 総合的な学習の時間、地域探求又は地域スポーツでの学びの振り返りを行い、その学びを進路実現に活かせるよう指導する | <b>3.6</b>  | 地域創造系の生徒は地域学部の大学への進学希望者が多く、地域探求の学びを進路実現に大いに活かすことができた。しかし、それ以外の学部を希望した生徒は苦戦した傾向にある。 |   |   |
| II   | <b>自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る</b>                   | 評価  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導については、よく相談にも乗ってもらえた。個別指導も熱心かつ丁寧にしてもらえた。小規模校であるがゆえの校長の全校生面談であったり、面接指導の充実という点はもっと評価されるべきであるし、アピールすべきである。</li> <li>・SHRでの1分間スピーチはよい取組である。</li> <li>・中学校での学びが不十分なまま入学してくる生徒もいる。学び方の基本を授業の中でも指導して欲しい。</li> <li>・学校の学習と地域活動を通じての学びとのリンクが大切である。</li> <li>・目標を持たせて自信をつけさせる指導が重要である。</li> </ul>  |   |
|      | ①総務部  | 地域活動で学んだことから新たな課題を提唱し、発展させられるような機会を持つ                   | <b>3.1</b>   |   | 提唱した課題をどう具体的に展開していくかを検討する必要がある。   |
|      | ②教務部  | 進級、卒業等の基準を含め、教務規定全体の見直しを図る                              | <b>3.2</b>   |   | 次年度実施にむけて教務規定改正案を作成中である。  |
|      | ③生徒指導部  | リーダー研修会等でのワークショップを通して、生徒の自主性、自発性、自律性を養う                 | <b>3.6</b>   |   | リーダー研修会における班討議(ワークショップ)は充実し、オープン・ハイスクールにおいても生徒主体に行動できるきっかけとなっている。今後はクラス討議で意見を表明できる生徒の育成と学校生活改善のきっかけとなるような取り組みをすすめていきたい。 |
|      | ④進路指導部  | 早い時期から志望理由書に取り組み、自分を見つめ、進路決定を確かなものとする                   | <b>3.7</b>   |   | 外部講師の指導により生徒の進路実現に向けての意識が高まった。特に、AO推薦入試対策講座の講師の指導が具体的に添削も有効であったので、引き続き次年度もお願いしたい。                                       |
|      | ⑤保健部  | 疾病に関する正しい知識を得て実行できるよう、実習・講習会などの機会を持つ                    | <b>3.3</b>   |   | 今年度、AED・熱中症講演会、薬物乱用防止講話を実施した。今後も実態に応じた研修計画をしていく。  |
|      | ⑥1年   | 基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び考える力を育てるため課題提出をし、自学自習の習慣を身に付けさせる。    | <b>3.1</b>   |   | 家庭学習の動機づけに週末課題や小テストを行ったが、やる生徒としない生徒の二極分化が見られた。明確な学習目標を意識づけ、基礎学力の定着に努めたい。  |
|      | ⑦2年   | 進路意識の向上と進路目標の明確化を目指して指導するとともに、進路実現に向けて学力の向上を目指す         | <b>3.3</b>   |   | 進路目標を明確にし、徐々にではあるが進路を意識した行動が見られる生徒が増えてきた。個々への声かけを強化し、学習の定着と学力向上につなげたい。  |
| ⑧3年  | 授業等で得た知識をもとに、自分の考えを積極的に発言するよう指導し、豊かな自己表現ができる能力の育成を図る    | <b>3.6</b>  | SHRにおいて1分間スピーチを行うことで、人前で発言することに慣れるとともに、授業等で得た知識をもとに、自分の意見を整理して伝えることができるようになった。     |   |   |
| III  | <b>共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる</b>                              | 評価  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生へのポスターセッションなどで八幡山公園の説明をしてもらった。吹奏楽部にも来てもらい一緒に活動した。このような活動を通して村岡高校生にあこがれを持つようになった。</li> <li>・地域貢献することで学習にも前向きになる。地域の貢献活動をすることによって学力も向上するという点を説明できれば、地域・保護者の理解は深まる。</li> <li>・アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)の項目の評価が低いが、実際は結構実施されている。</li> <li>・地域への貢献は、活動を通して定着、充実していると感じる。その中で、「日常」については噂やロコミで広がる部分が多い。これをコントロールできれば学校に対する信頼はさらに向上する。</li> </ul> |   |
|      | ①総務部  | 高校生の活動を広く地域に理解していただくための具体的な方法を考える                       | <b>3.2</b>   |   | 地域への広報活動という点では不足している部分もある。地域への広報活動をさらに強化していく。   |
|      | ②教務部  | 各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を促し、研修を行う                            | <b>2.7</b>   |   | 研修の必要性は感じているが、時間的な余裕が企画する側にもない。可能な方法を次年度に向け考えたい。  |
|      | ③生徒指導部  | 生徒が積極的に参加する行事(村高祭等)を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う          | <b>3.7</b>   |   | 生徒会を中心に学校行事を主体的に取り組み大きな感動と成長を生んでいる。特に、村高祭において大きな成果を得ている。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を体得し、さらに自己肯定感を持てるような取り組みにしていきたいことが求められている。     |
|      | ④進路指導部  | 模擬面接やグループディスカッションを通して多面的な角度から自己を見つめる                    | <b>3.6</b>   |   | 就職希望者に対するハローワーク職員による面接練習は大変効果的であった。校長をはじめとして、地域おこし協力隊、事務長、部活動顧問、3学年、関係のある教員に面接指導に入ってもらったが、11月中旬は人手不足で手が回らない状況である。       |
|      | ⑤保健部  | 健全な学校生活を送るための環境作りの重要性を自覚し、生徒・職員が協力して清掃美化活動を行う           | <b>3.3</b>   |   | 清掃監督が不在の場合若干サボる者も見受けられるが、概ねできている。今後もっと自主的に取り組めるよう美化委員とともに働きかけていく。   |
|      | ⑥1年   | HR活動や学校行事などを通して、他人への思いやりを育て、互いを認め理解し助け合える人間関係を育てる       | <b>3.2</b>   |   | 生徒の実情に合わせたHR活動を行い、互いを理解し認め合える人間関係の構築を図った。更に思いやりのある言動やクラスの一員としての自覚を促していきたい。  |
|      | ⑦2年   | 中堅学年としての自覚を持ち集団に寄与できる生徒の育成と、互いを認め高め合う人間関係の構築を図る         | <b>3.1</b>   |   | 後輩ができ指導される立場から指導する立場となり、集団での自己の役割を意識して行動するようになった。仲間との違いを認め受け入れることの出来る土壌作りに努めていきたい。                                      |
| ⑧3年  | 最高学年としての自覚を持たせ、様々な活動においてリーダー役として行動できる集団の形成を目指す          | <b>3.5</b>  | 学校行事や生徒会活動のなかで、リーダーシップを発揮し、積極的に自分の力を発揮することができた。                                    |   |   |